

2020年度つくば国際大学高等学校自己評価表

目指す学校像	1 自分を生かし、「社会の役に立つ人材」を育成する学校 2 厳しい時代を生き抜くための「生きる力」を身に付けられる学校 3 地域に根差し、地域に信頼され愛される学校
重点項目	重点目標
1 キャリア教育の充実	社会的・職業的自立に向け、生徒一人ひとりの夢を育み、将来の自分を考えさせ必要な基盤となる能力や態度の育成に努める。また、併設大学・短大との連携を強化する。
2 確かな学力の向上	わかる喜びと自信をもたせ、よりよく問題を解決する力を養うため、基礎学力や思考力・判断力など確かな学力の向上を図る。
3 人間関係作りの推進	温かい人間関係を築くことができるよう、コミュニケーション能力の向上や居場所作りに努める。
4 特別活動の活性化	望ましい集団活動を通して個性の伸長及び自主的・実践的態度の育成のため、部活動や学校行事等の活性化を図る。
5 基本的生活習慣の確立	他者と協働できるよう、規範意識や自己管理能力を育むため、学校のルールを守り、社会のマナーを身につけさせる。
6 国際教育の推進	グローバル化が急速に進展する中、外国の人々の多様な価値観を認め共生できるよう異文化理解の活動を推進する。
7 情報教育の推進	社会の高度情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度を育むため、情報活用能力の育成を図る。
8 地域貢献活動の推進	奉仕の精神を涵養し、豊かな人間性や社会性を高め、達成感や自己肯定感を醸成するため、地域社会での奉仕活動や体験活動の推進を図る。
9 働き方改革の推進	教職員が健康でやり甲斐が持てるよう業務改善を図るため、校務支援システムの導入など職場環境作りに努める。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第1学年	1 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアの授業と学年が連携して目標を達成できるよう計画的に指導に当たる。 ・自己管理能力を育成するためにノルティール手帳、ポートフォリオを有効活用する。 ・インターンシップにて個人の目標を設定できるように指導する。 	A	A	<p>・新型コロナウイルス感染拡大の影響でインターンシップは中止になった。しかし、キャリア教育でのポートフォリオの活用、毎日のノルティール手帳を通じての生徒とのやり取りで、担任・副担がよく指導してくださったので、多くの生徒が進路についての方向性をある程度決めることができた。来年度もこれを継続して取り組んでいきたい。</p> <p>・ベーシックは予定通りには進まなかったが、担任・副担が連携し、学年会議で振り返りを行い、乗り切ることができた。来年度はもっと振り返る機会を多く設け、ベーシック担当教員ともたくさん連携して取り組んでいきたい。</p>
	2 確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で生徒が「できた」「わかった」と感じられるように授業を工夫する。 ・ベーシックの授業において躓きを発見し、基礎学力の向上を目指す。出来る喜びを一人でも多く味わえるようにする。 ・進路マップで成果が出るよう、授業と連携して指導に当たる。 ・ホームルームを通じ、身だしなみと気持ちを整え、落ち着いて授業に向かう環境を作る。 	A		

	3 国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの教科で国際教育についてできることを検討し、授業で扱うよう依頼する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・業務が忙しすぎたので、なかなか取り組むことができなかった。来年度は修学旅行があるので、前回の台湾旅行に行った藤野教諭や英語科、国際教育推進委員会と連携して、早目に取り組んでいきたい。生徒たちにとって思い出深い修学旅行にしたい。 ・フレッシュャーズキャンプが中止になった影響は大きく、人間関係作りがなかなかできない生徒が多かった。 ・大きな問題行動は無かったが、来年度は中だるみの時期。今年度以上に生徒を見守り、異変やサインに早く気付くようにしたいと思う。 ・来年度も引き続き、ONE TEAMを学年目標にして頑張りたい。
	4 人間関係作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・フレッシュャーズキャンプなどの行事で協働することを通して、望ましい人間関係を育てる。 ・相手を考えて正しい言葉遣いができるように指導する。 ・生徒がいじめから身を守れるように、HRで生徒を見守り、学年集会等でいじめに対してどのように対応するかを全体に周知する。 ・一人ひとりが互いを尊重し合い、ONE TEAMを築く。 	A	
	5 特別活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動や委員会活動に積極的に参加し、学校生活をより豊かなものにする。 	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第2学年	<p>1 キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる 自分の進路を自分で決めるという主体性を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人基礎力(3能力と12要素)を意識した教育活動を行う。 目標を達成するためにキャリアの授業、進路行事、学年行事で連携した指導を行う。 行事や行動の記録や成果を手帳、ポートフォリオに記録させる。 	C	B	<p>学校行事や進路行事がなくなり、全体への進路への意識付けができなかったり、オープンキャンパスなどの参加もほとんどできなかった。</p> <p>身だしなみや生活態度をループリックを通して自ら修正するようにはたらきかけてきたが、マンネリ化して効果がなくなってきた。</p> <p>コロナの影響で不規則で慣れない学校生活が続き、生活や学習のリズムが作れず、生徒指導案件、不登校が多く見られた。</p> <p>年度途中で教員が変わるなど、学校の信頼を失うようなことがあったが、2学年の先生方の協力でなんとか崩壊せずに持ちこたえることができた。</p>
	<p>2 確かな学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本的な学力を育成する 家庭学習の習慣をつける 学びに向かう姿勢を育てる 学ぶ環境をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で生徒が「できた」「わかった」と感じられるように評価基準を作成して授業を行う。 遠隔指導を利用して学習支援や課題、宿題を課し学習の保障と学習の習慣を付ける。 「進路マップ」で成果が出るよう授業と連携して指導に当たる。 朝学習を通して、身だしなみと気持ちを整え、落ち着いて授業に向かう環境をつくる。 授業に向かう態度を、自己評価させることを通して、修正点を認識させて自ら改善するよう指導する。 	B		

		<ul style="list-style-type: none"> ・きれいで整理整頓された教室環境をつくり、生徒が落ち着いて学ぶ環境を整える。 			
	<p>3 人間関係づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい言葉遣いを身につける ・思いやりの気持ちを育てる ・いじめの防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で元気にあいさつができるように指導する。 ・相手を考えて正しい言葉遣いができるよう指導する。 ・不登校や悩みを抱える生徒に対して、担任の指導はもちろん教育相談や遠隔指導などを利用してよりきめ細やかな指導を心がける。 	B		
	<p>5 基本的生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナーを守る ・気持ちよいあいさつができる ・正しい身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての生徒が安心して生活できるよう、規範意識、マナーについて意識させる。 ・身だしなみを、自己評価させることを通して、修正点を認識させて自ら改善するよう指導する。 	C		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第3学年	「将来に夢と希望を持ち、自己実現までの職業人生設計を自ら描ける力」を身に付けさせる。	総合学習での進路ナビゲーションワーク 進路相談会の活用 ノルディースコラ手帳を習慣付ける	B	<p>新型コロナウイルスの影響で学校行事や進路行事に制限があったため、今年度の目標はほぼ達成できなかった。1年次から力を入れていたSDGsに関してもII類理系の授業でしか取組めず、今後はすべての教科の授業に積極的に取り組むべきだと感じた。</p> <p>進路に関しては、2年次までに指導してきた甲斐もあり、ほぼ全員進路目標を達成することができた。特に、自己推薦で茨城大や千葉工業大などの本校生徒にとっての難関校に合格したことで、挑戦することの大切さを再確認するとともに、生徒の可能性を見極める教員の力が必要になると改めて感じた。</p>
	「自己実現の為の基礎学力,思考力・判断力・表現力などの確かな学力」を身に付けさせる。	朝学習(週3回), 宿題(週2回)の実施 検定試験(英検, 漢検, 数検, GTEC等) 授業への積極的参加	C	
	「人を思いやり、強い責任感と高い規範意識を持ちながら協働できる力」を身に付けさせる。	グループワーク形式の授業やLHRを実施 卒業へ向けて制作課題を実施	A	
	「自分の考えを的確に発信し、他社の意見を傾聴できる能力」を身に付けさせる。	LHRでグループワークを活用したコミュニケーション力の向上 学校行事への積極的参加	B	
	「外国人の多様な価値観を認め、異文化を理解し、共生社会を実現する力」を身に付けさせる。	総合学習時のSDGsに関するクラス展開 定期的に教科をまたいだ教員との英語でのコミュニケーション週間実施	C	
	「地域や社会に関心を持ち、自ら積極的に参画・貢献する力」を身に付けさせる。	校外美化推進活動(クリーンアップ作戦)への積極的参加	C	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教務部	1 授業時間を確保するとともに、規律ある授業実施の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 行事の精選を図り、授業時間の確保をする。 チャイムで授業開始、終了を徹底する。 節度ある態度で授業を受けられるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間の確保と学校行事の精選は、継続して検討すべき課題である。 エリア設定科目の実施(木曜日5、6時限に固定)、習熟度別授業(1学年数学)、ベーシック(1、2学年)の展開に対応した時間割編成と運用の工夫。 観点別評価のための評価規準を、教科ごとに構築するよう促す。
	2 PDCA サイクルを確立し、自己管理力の育成・向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> NOLTY スコラ手帳を活用させ、より良い生活習慣の確立を図る。 	B	
	3 新学習指導要領を念頭に置いた評価基準および教育課程を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科と連携し、新学習指導要領を意識した評価規準を作成する。 各教科と連携し、新学習指導要領を意識した教育課程を作成する。 	B	
	4 授業力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度同様、アクティブラーニングを意識した授業研修を心がける。 	B	
	5 キャリア教育の柱であるエリア設定科目開設の準備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> エリア設定科目のシラバスを完成させ、次年度実施に備える。 	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
図書情報部	1 図書室利用や図書の貸し出しの促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 図書室内の装飾を工夫し、明るく、親しみやすい図書室環境作りをする。 生徒にわかりやすい配架や貸し出し・返却の仕方を検討し、より円滑な図書利用を図る。 	A	B	<p>図書室内のレイアウトや配架の改善を行ったが、さらに生徒目線での改善も必要である。</p> <p>昇降口や職員室におすすめ本のコーナーを設置したが、教員及び生徒の興味を引き付けられるような工夫が必要である。</p> <p>入試関係で図書室を使用できない期間が長いので、その期間の対策を検討する必要がある。</p> <p>今年度はコロナの影響で部活動や行事の制限が多かったこともあり、HPやTwitterを更新する機会が少なかったが、日常の学校生活についても特色ある内容の情報に関して発信していくことも必要である。</p>
	2 図書の紹介を通して読書活動の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> おすすめ本のコーナーの設置の仕方や掲示の方法を工夫し、生徒の読書に対する関心を高める。 	B		
	3 本校教育への理解が高まるように、教育活動に関する情報を外部に対して積極的に発信し、共有を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校HP、Twitterの定期的な更新を計画するとともに、即時的に最新情報を掲載する体制を整える。 各校務分掌・学年・部活動等への情報更新の呼びかけを行う。 	B		
	4 校務支援システムの推進により働き方改革を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 高度情報推進委員会との連携を取り、スムーズな移行を図る。 	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
生徒指導部	1 一人ひとりについての生徒理解の深化を図る	・日頃から一人ひとりの言葉に耳を傾け、その気持ちを敏感に感じ取ろうという姿勢を持って生徒に接する。	B	B	<input type="checkbox"/> 教員サイドからの声掛けの徹底を心掛ける。 生徒の人権に配慮することを失念しない。 <input type="checkbox"/> 規範意識徹底の重要性を繰り返し説いていく。 <input type="checkbox"/> 毎年 SNS を舞台にした問題行動が起きている状況を踏まえて、間違いのない使用方法を徹底させるため講話及び担任等によるアプローチを行う <input type="checkbox"/> 誤った認識を持っている生徒が必ずいるとの認識を持ち、薬物の正しい使用法及び禁止薬物に対する理解の徹底を図る。
	2 基本的生活習慣の習得	・学期はじめ及び随時服装髪型検査を行う。 ・担当職員による定期的な生活指導により自己指導能力の育成を図る。	B		
	3 情報安全教育をすることでの危機管理能力の育成	・携帯電話・スマートフォン等の適切な利用方法と SNS 利用時の危険性についての指導を行う。 また、利用マナーの啓発を行い、関連する問題行動の撲滅を図る。	B		
	4 薬物乱用防止の徹底	・薬物乱用防止講話の実施。 ・保健授業での周知徹底を図る。 (薬物乱用の危険性についての認識を高める。)	B		

	<p>5 いじめ防止教育の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校としていじめは絶対に許さないという強い姿勢で臨む。 ・いじめに対するアンケート調査を毎学期実施する。 ・集会・HRにおいて『いじめ』の定義について再確認と、他者に対する思いやりの醸成を図る。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>本年度は重篤な状況のいじめは散見されなかったが、どの状況においても安心することなく生徒の状況把握に努めていく。 <input type="checkbox"/>交通事故が数件確認されている状況であった。人間の行動が行われている以上、必ず起きるとの認識を強く持ち、講話及び毎日のコミュニケーションにおいての指導を徹底させる。
	<p>6 交通安全教育の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・警察署交通課担当による交通安全講話を実施し交通ルールの遵守について重要性を理解させる。 ・登下校指導を行い、通学時の安全を確保する。 	<p>B</p>	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
進路指導部	1 生徒一人ひとりの夢を育み、将来の自分を考えさせ必要な基盤となる能力や態度の育成。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な探求の時間では、キャリアデザインと称して、生徒一人ひとりの自分の将来について考える、教育プログラムを実施。 ・ 全学年を通して、ノルティ어의学習手帳を遣い、PDCAサイクルの習慣化を身につけさせる。 ・ 進路ガイダンスや職業理解ガイダンスなどの適宜実施。 ・ 併設の幼稚園・保育園実習、外部機関主催の看護体験やインターンシップなどの参加へを促す。 ・ 併設大学や短期大学との連携を密にし、医療分野・保育分野に興味を持つ生徒の育成を図る。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアデザインは本年度で2年目を終えることができた。各学年ごとに内容を調整をしながらの進行であるが、取り組み内容は定着してきた。3年間を通した計画の途中段階であるが、次年度はキャリアデザインの完成年度として取り組みたい。 ・ 併設の幼稚園・保育園実習、外部機関主催の看護体験やインターンシップはコロナ禍の影響で中止になった。次年度は開催できることを望みたい。 ・ 併設大学・短期大学と連携を強化している。特に次年度から実施されるエリア科目（メディカルエリア・生活デザインエリア）の実施に向けて協力的に取り組んでいる。

	<p>2 生徒一人ひとりの能力の開發と自学自習の定着化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己学力の分析と学習到達目標の設定。 ・模試での成績の自己分析や次のテストへ向け課題設定を行い、学力向上を図る。 ・数値的目標としては、模試の学習到達度 D ゾーンから C ゾーンへ到達する学力向上を重点課題とする。 ・ 実用英語技能検定、日本漢字能力検定、実用数学技能検定受験などの資格・検定試験受験の啓発に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験に向けての取り組みに対しては、目的の理解・目標の設定の焦点かにやや不十分の面があるが、1年生でのベーシックのや数学での習熟度授業の取り組みにより、基礎学力の定着に向けて、意識の向上が見られた。今後は、模試での成績の分析や、次のテストに向けての課題設定などができるように意識向上に向けて図りたい。
--	-------------------------------------	---	---	--

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1 保護者と教師の連携強化を図り、本校教育活動の理解及び発展を目指す。	PTA 活動を通じ、保護者との情報交換を積極的に行い、各活動に対する共通理解を図る。	B	B	<p>今後も PTA との連携を密にし、しっかりと情報交換をすることは必須である。</p> <p>次年度は PTA 関係行事の精査を PTA 会員とともにを行い、必要行事、不要行事を見極め、改革を行うことが必要ではないかと思われる。</p>
		PTA 活動における改善点や問題点に対して保護者との意見交換を積極的に行い、対応を図る。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
保健厚生部	1 校舎及び敷地内において積極的に清掃活動を行ない、生活環境の美化を図る。また、委員会活動の活性化を図り通学路の清掃活動などに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室及び分担区の清掃をきちんと行い、校内美化に取り組み、ごみの落ちていない清浄な環境をつくる。 ・美化委員や校内環境美化のボランティアなどの協力を得て、学校生活に関わる環境の美化を図る。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃分担区の監督者が途中変更になったことで連携が十分にとれず清掃が徹底できなかつた場所がみられた。また、一部の生徒によるゴミの投げ捨てや男子トイレの汚損などの悪戯が繰り返される状況も見られた。清掃監督者と担当クラスの担任との連携を密にし、清掃の徹底を図ると共に校内における汚損が無いように生徒へ一層の注意喚起をすることで意識を高める。 ・コロナ感染拡大に伴い。防災・防火避難訓練を実施することができず、避難経路の確認だけとなった。次年度は、より現実的な避難訓練を実施できるよう避難経路の検討を行う。 ・奨学金関係の連絡・指導については遅滞なく円滑に行えた。次年度についても同様の指導にあたる。
	2 防火及び地震などの災害対策の徹底を期し、生徒並びに教職員の防災意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災・防火避難訓練を通して、身の安全確保の仕方と避難経路を確認させ、いざという時に災害被害を被ることがないように、日常的な意識の高揚を図る。 	C		
	3 奨学金（奨学生制度）について、適切な利用ができるように生徒及び保護者に周知徹底することで、生徒の進学機会の創出の一助とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金関係の連絡を漏れなく生徒・保護者に伝え、提出書類の出期限等を厳守させるなど、必要な手続きを遅滞なく行なえるよう指導する。 ・奨学金の説明会を適宜実施し、本人・保護者に対し制度についての理解を深めさせ、適切な利用ができるよう促す。 	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
特別活動部	1. 様々な学校活動を通して、学内における生徒同士の関わりを深め、コミュニケーション能力の向上を目指す。	・学校行事の組織編成を工夫し、生徒同士がかかわりを持つことのできる運営を実施する。 (※ 生徒総会の実現)	B	<p>本年度の特別活動行事は、コロナウイルスの影響により、予定していた14行事中、部活動紹介・好文祭・生徒会選挙・キャップリサイクル・赤い羽根募金の5行事のみの実施となった。</p> <p>全校で取り組む行事がなくなってしまった中で、唯一、短縮による好文祭が行えたことは、クラス内の生徒同士の交流やリモート鑑賞等、とても意味のある行事となった。先生方、生徒の協力に感謝したい。</p> <p>「赤い羽根」募金活動では、例年になく多くの金額が集まった。</p> <p>生徒会選挙では多くの生徒が立候補し、通常の選挙による選出が行われた。</p> <p>次年度へ向けては、例年通りの形式で行事が行えるよう準備をする必要があるが、実施に関しては、その時の状況を踏まえて、慎重に判断して行う必要がある。</p>
	2. 委員会活動の活性化し、生徒主体の活動を通して、自主的・実践的な態度の育成を目指す。	・各委員会活動が活動予定及び運営要領を策定し、生徒が中心となり主体的に取り組めるように指導する。	B	
	3. 部活動の活性化により、明るく活動的な学校生活の実現を目指す。	・部活動を通して、心身を鍛え、明るく健康的な学校生活を送り、同じ目標を持つ活動の中で、クラス活動とは異なる、より豊かな人間関係を育成する。	B	
	4. クラス活動を通じた協調性・自主性・社会性の育成、集団の中での責任感や連帯感の涵養を図る。	・クラスマッチや好文祭などのクラス活動において、互いを尊重しながら、より良い企画の実現を目指して、意見交換等を積極的に行うなどの機会を作る。	B	
	5. 地域貢献活動を通して、奉仕の精神の涵養、社会性の向上、達成感の醸成を目指す。	・清掃・美化活動の実践と活動の活発化。また、地域行事やボランティア活動への積極的な参加による体験活動の推進。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教育相談部	教育相談の円滑な運用を図り、生徒の自己理解を促し、自ら前進する力を付けるための支援を行う。	学校生活において、友人関係や学習面など青年期の発達課題に直面し、大きな不安や緊張に悩む生徒に対し、彼らを取り巻く担任、学年、保護者、カウンセラーとの連絡・調整を図り、不安や悩みを解決するための援助を行う。	A	B	<p>本年度の教育相談室利用者は2月26日現在で27名（延べ回数137回）である。また、カウンセリング利用は36名（延べ回数127回）である。</p> <p>5月までの自宅学習期間等により相談室利用やカウンセリングの回数は減少している。しかし、特にカウンセリングについては予約や実施が常に詰まっている状況であった。また、12月にカウンセラーの交代があったが、前任と後任の先生の引き継ぎや情報交換がスムーズに行われ、カウンセリング希望者、またカウンセリングの継続が必要な生徒への対応も支障なくおこなわれた。</p> <p>ただし、職員研修が中止になり、知識・能力向上の時間が取ることができなかった。</p>
		学年主任、及び各教科担当の教師と学習内容の確認作業を行い、教育相談室利用生徒の学習の滞りを防ぐ。また、自学的学習のサポートにより学習意欲を促す。	B		
		職員研修を企画・実施することで、教員のカウンセリングマインドの能力向上を行う。	C		